

# ぷらんど

## JA全農えひめ情報

7

2015・July

■特集 〈竹村副本部長インタビュー〉

地域の元気づくりと暮らしへの貢献、事業機能強化めざす！



▶明治期の木造2階建ての重厚な造りの主屋は国の登録有形文化財



# 愛媛の酒蔵めぐり

1

## 梅錦山川株式会社

代表銘柄 梅錦  
 創業 1872年（明治5年）  
 代表者 代表取締役 山川浩一郎  
 住所 四国中央市金田町金川14  
 TEL 0896-58-1211

▲松山三井を使用した「媛の愛 幻味」（左）、しづく媛を使った統一銘柄酒「しづく媛」（中）、同じしづく媛を使用するがタイプの違いの違う味わいの「今産」（右）。飲み比べも面白い

## 梅錦

全国新酒鑑評会最高位の金賞を通算31回受賞の銘酒「梅錦」の名の由来は、蔵のある金川地区がかつては見事な梅園であり、その美しい花と芳香を表したものです。

梅錦山川の原点であり、目指すのは「うまい酒」です。万人に愛される平均化された旨い酒でなく、一人、一人をおいしいと唸らせる個性をもつ酒。それが翻って多くの人に支持されていくという思いです。品質向上へと、杜氏の技が発揮される環境を第一に考えた施設の近代化を進め、効率的且つ、匠の感性なくしては造れない繊細な手仕事の融合で、伝統を礎に新しい提案を行っていきます。

また、先代が苦勞して入手した兵庫県産山田錦に始まる米へのこだわりは格別です。社長の山川さんは「酒造りは米作り。酒造好適米の栽培は手間がかかり、技術を要します。10年20年後は好適米が足りず、県外出荷が叶わない可能性があります。地元で確保すべき好適米として登場した待望のしづく媛。その特性が生きたしづく媛らしい酒を極めるには年数がかかり、その方向性はまだまだ未知数です。生産者の方には、いい意味で「商売人的感覚」を持ち、共に前進していきたい」と先を見据え、語られます。

# めぐり〜ど

July 2015

## CONTENTS

### 全農グループの経営理念

私たち全農グループは、  
生産者と消費者を安心して結ぶ  
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

### 今月の表紙



梅雨明けのさわやかな日は家中の衣服、書籍、タンスの引き出しも開放して風を入れ、カビ・害虫をシャットアウトし、スッキリと。一段落したお父さんは畳にゴロリと、うたた寝中。子供も真似してスヤスヤと。「ご飯ですよ〜!!」。

庭では梅の土用干し、田では田の土用干し、そして今日のお昼はウナギのかば焼き…土用の丑の日もお忘れなく！

- 表紙：土用の虫干し  
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心を一にする (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.175

愛媛の酒蔵めぐり①〜梅錦山川(株)

2

〈特集〉竹村副本部長インタビュー

地域の元気づくりと暮らしへの貢献、  
事業機能強化めざす！

6

THE・ねっとわーく

8

ふるさと ESSAY VOL.243

「とべりて」という風 いきおい

山田 ひろみさん

10

TOPIC NEWS

14

なんでもBOX

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉インゲン

### JA全農えひめ

### ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

#### ■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

#### ◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

#### ◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

#### ◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

#### ◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

#### ◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

#### ◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

# 地域の元気づくりとくらしへの貢献、 事業機能強化めざす！

J A全農えひめ平成27年度事業計画は、中期3か年計画の総仕上げの年として、元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献などに向けた取り組みを進めています。  
今回は、管理部・生活部担当の竹村靖副本部長に、生活関連事業およびJ A総合物流、グループ会社の27年度の取り組みと方向等について聞きました。



J A全農えひめ 副本部長  
たけむら やすし  
竹村 靖

## 3か年計画仕上げの年 事業目標の達成に取り組む

**編集部** J A全農えひめ・愛媛農業を取り巻く情勢について、26年度を振り返ってどうみていますか？

**竹村** 26年度は、消費税率の引き上げによる消費面での影響、円安基調のもとでの諸生産資材価格の高止まり、米の大幅な需給緩和に起因する米価の下落、天候不順による農産物の数量減と、生産者にとってはとても厳しい年となりました。

J A全農えひめでは、「元氣な産地づくりと地域の暮らしへの貢献」を掲げて、「トータルアグリード事業」を核に食糧部・営農販売部・生産資材部・畜産部・生活部が事業を展開しましたが、26年度の総供給販売高は、949億円、計画比で94%という結果でした。

**編集部** 計画を下回った要因は？

**竹村** 米価の下落、天候不順による青果物の出荷数量の減少とそれに伴う段ボールの取扱数量減、生産資材では消費税増税の反動、生活部は家電製品などの生活用品やメモリアル関連品の販売不振によりそれぞれ取扱高が減少しました。畜産部は、豚肉の販売数量増・相場高により取扱高は増加しましたが、他部門で計画を下回る結果となりました。

**編集部** 27年度については？

**竹村** 6月末段階の総供給販売高は、畜産部の相場高により、計画比102%となっています。

27年度は中期3か年の最終年であり、J A全農えひめとして推し進めている「トータルアグリード事業」の総仕上げの年と位置付けて、J Aグループ自己改革の中で求められている「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」の3つの事業目標に対しきちんと成果が出

せるよう、営農経済事業を担う連合会としてビジネスモデルの確立、産地基盤の維持拡大、担い手の確保・育成への支援などに取り組んでまいります。

### 生活関連事業を通じて地域のライフライン確保等 くらし支援の役割発揮を！

**編集部** 次に、担当している生活関連事業について聞かせてください。

**竹村** 現在、農協法の改正とともに、その一方で我々J Aグループでは自己改革を進めることとしており、生活関連では特に「地域の活性化」の実現に関して、超高齢化社会や過疎化が進展するなかで、組合員が「地域で安心して快適に生活する」ために、商品やサービスの提供を通じて地域のライフラインの確保や地域コミュニティの活性化など地域のくらし支援の役割を発揮することが求められており、J Aの生活事業の重要性はますます増していると感じています。

J A全農えひめでは、中期3か年計画と27年度事業計画で掲げた、「生活関連事業を通じた地域の元気づくりとくらしへの貢献」に向けて、「県内産・国産農畜産物の販売拡大」「く

らしの安全・安心と健康への貢献」「快適で環境にやさしい生活支援」「地域インフラとしての社会的使命・役割の発揮」という4つの重点目標を柱に事業を展開していると述べています。

**編集部** まず、「県内産・国産農畜産物の販売拡大」について具体的に聞かせてください。

**竹村** J Aグループ愛媛の農畜産物消費拡大運動として「ジュース・お茶愛用運動」は、良質で安心な県産品を愛用していただき地域農業の振興につながる取り組みです。毎年、県下組合員の皆様のご協力をいただき着実に実績を上げており、26年度は、目標を上回る38万9千ケースの実績をあげています。今年度も全体目標を35万ケースとして取り組んでいます。

また、国産原料にこだわったエコープマーク品と全農ブランド商品の取扱拡大を進めています。26年度は、県下全J A、のべ40会場でエコープマーク品研修会・見本市を開催し、女性部員を中心に約2、300人の参加をいただいております。今後もこうした取り組みを通じてマーク品を中心に普及拡大に取り組みます。

**編集部** ネットシステムを通じた事



業展開の状況は？

**竹村** 地域組合員からネット注文を受けるため、JA生活担当者を中心に個配システムの研修会を開催し、「JAくらしの宅配便」の個配会員獲得と利用促進を図っています。現在12JAで会員数拡大に向け取り組んでいます。また「JAタウン」は大手インターネット事業者との提携も行っており、今後は「JA全農えひめ直販ショップ」の県内農畜産物を中心としたアイテム数の拡大・充実を進めていきます。

**編集部** 「くらしの安全・安心と健康への貢献」の取り組みは？

**竹村** 葬祭事業では、JA愛媛葬祭協議会活動を通じて、多様化するニーズに応えるため各種研修会・講習会を開催しJA担当者の資質向上とともに、メモリアル関連事業について仕入機能・事業競争力の強化を目的に共同仕入活動を実践し、会員JAへのメリット還元を努めています。

LPガス事業では、JAえひめエネルギー(株)が、顧客に安心・安全を提供するため、JA担当者研修会などを通じた保安教育の徹底、LPガス監視システムの活用による顧客の保安確保に努めています。

**編集部** 「快適で環境にやさしい生

活支援」では？

**竹村** 話題の太陽光発電システム、太陽熱温水器、エコキュート等の新エネルギー関連商品の事業推進を通じて、地球の環境保全に取り組みしており、特に太陽光発電システムは26年度に448kwの産業用大型物件を設置し、事業にも大きく貢献しました。

「地域インフラとしての社会的使命・役割の発揮」については、高齢者や買物弱者対応として、JA支所購買店舗のYショップ化や移動購買車導入の提案を実施しており、26年度は新たにYショップを2店舗オープンしました。

石油事業では、修正マスタープランの実践による事業基盤の再構築や「お客様目線」に重点を置いたSS運営の実践を進めています。30年以上経過したSSは漏洩リスクも高まるため、廃止・改修、移設など再構築に向けた協議を継続するとともに、地域ライフライン網維持と拠点整備のため、セルフ化の提案・協議を進めており、1SSの統廃合によるセルフ化も決定しています。

### JA総合物流を進め 営農と生活基盤を維持

**編集部** 次に、JA総合物流の取り

組み状況をお願いします。

**竹村** JA総合物流では、農家組合員の高齢化が進展する中、営農と生活基盤を維持していくため、平成24年度に生産資材に加え生活購買品、生産物の集荷などを対象とした総合物流の整備指針を策定し、25年度から「営農と生活を守る総合物流」として実践に取り組んでいます。

現在は、JAの拠点配送に加え、東予3JA、南予3JAで農家組合員への肥料・農薬を中心とした戸配送を実施中です。東予地区では、さらに米の庭先集荷、生活購買品の戸配送も行い、生産資材以外の品目についても拡大が進みつつあります。

ただ、機能や品目の拡大は徐々に進みつつありますが、配送の効率化や合理化、品目拡大については、JAごとを抱える課題も異なる中で、今後はJAごとに対応案を提案してモデルとなるJAを作り、これを水戸展開していければと考えています。また、今後ますます高齢化が進むので、買い物弱者対策としての生活購買品の戸配送の体制整備が必要です。

農産物の集荷では、米の庭先集荷だけでなく、青果物の広域集出荷体制整備が求められている中で、青果物の庭先集荷も今後重要になってく



ると感じています。これらの取組み拡大とあわせ、効率化・合理化を行いながらトータル的な物流コストの低減によりJAグループ自己改革にある「トータルコストダウン」の一翼を担えればと思っています。

### グループ会社と一体で期待に応える事業展開

**編集部** 管理部の取り組みは？

**竹村** 管理部業務については、グループ会社も含め、特にコンプライアンス態勢の強化、事業計画の達成に向けた進捗管理、営業力・企画力向上のための人材育成やJAグルー

プの事業への理解向上に向けた広報活動の積極的な展開が柱となります。管理部門が事業部門やグループ会社と一体となり、愛媛農業、地域の皆さんの営農とくらしを支えていきたいものです。

**編集部** グループ会社の動向については？

**竹村** グループ会社7社の26年度売上高合計は、計画522億円に対し、計画比96%でしたが、全社黒字決算で、7社計では計画以上の実績をあげています。

27年度もJAグループの会社として、生産者・JA・消費者の期待に応えるよう、健全経営を確立し、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の強化に取り組んでまいります。

特に最大の会社である(株)えひめ飲料は財務健全化計画に基づき経営改善を進めています。ポンブランドの活性化によるシェアの維持・拡大、OEMブランドオーナーとの関係強化による受注の確保、茨城工場アセプト炭酸兼用ラインの安定稼働などにより、経営改善目標の早期達成に取り組むこととしています。

### 改革を実践し、成果の「見える化」に取り組みます

**編集部** 最後に、組合員・JAへのメッセージ、抱負をお願いします。

**竹村** 現在、農協法改正、JAグループ自己改革、TPP問題など、私たちが取り巻く環境は予断を許さない状況にあります。また、本年は、JA全国大会、JA愛媛県大会が開催され、今後のJAグループの進むべき道筋が方向付けされる年です。

特に、JAグループ自己改革の中で、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を成し遂げるために、各JAにおいても、その地域実態に応じた「営農・経済改革プラン」を策定し改革を実践していくこととなります。

JA全農えひめでは、各連合会やグループ会社と連携し、生産、流通・販売、購買面でその改革をしっかりと支援・補完し、改革の成果が生産者、担い手、地域の皆さんの目に見える形となるよう取り組んでまいりますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

# THE

# ねつとわーく

## 「JAホームオリジナル企画型住宅 エコキャンペーン実施中！」

### 設 施 農 住 課

「JAホーム」では、社会的に地球温暖化防止対策が進む中で、地球環境にやさしい取り組みとして、「はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。」をキャッチコピーに、平成27年12月30日まで、「JAホームオリジナル企画型住宅エコキャンペーン」を実施しています。

### キャンペーン内容

キャンペーン期間中に、企画型オリジナル住宅「Age（エイジ）」または「イーズマインド」をご成約いただいた方に、光熱費がお得で地球環境にもやさしいヒートポンプ給湯器「エコキュート460ℓ」をプレゼントします。

なお、「IHクッキングヒーター付システムキッチン」を標準装備（シンブルタイプはガスコンロ）。オプション工事として、太陽光発電システムも装備できます。

期間中、県内JA・JA全農えひめでは、テレビCM、キャンペーンチラシや広報誌・イベント等を通じ

てPRに努めていきます。

### 【契約条件】

- ① 施工坪30坪以上。
- ② 県内で建築することのできる物件、もしくは土地を取得予定の方。
- ③ キャンペーン期間中の契約で、原則として平成28年3月末までに着工できる物件。
- ④ JA全農えひめの住宅取扱要領に合致していること。

### リフォーム推進活動も展開中

「JAホーム」では、同時に、「リフォーム推進活動」も展開しています。住まいの中で傷みややすいバス・キッチン・トイレをはじめ、外壁や屋根の塗装など、住まいのお悩みを解決しながら、ご希望に沿った最適なプランを提案し、お手ごろ価格で快適な暮らしを応援します。

新築・増改築など住まいに関する相談・お問い合わせは、最寄りのJA住宅担当窓口、またはJA全農えひめ施設農住課（☎089-948-5473）まで、お気軽にお問い合わせください。

はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。

**JAオリジナル住宅**

# エコキャンペーン

2015年4月1日～12月30日 ※2016年3月31日までに着工可能。及び床面積30坪以上の方に限ります。

期間中、ご成約の方に、**エコキュート460ℓ** プレゼント！

光熱費がお得！  
地球環境にもやさしい給湯システム。

**Age**  
JA home "Age" Series  
21世紀の安心、エイジ  
【エイジ】

**mind**  
【イーズマインド】

JA/JA全農えひめ お問い合わせはJA全農えひめ 生産資材部 施設農住課 TEL(089)948-5473またはJA窓口まで

## グループ会社役員人事（常務以上）について

J A全農えひめのグループ会社は、このほど株主総会・取締役会を開き、新役員体制を決めました。トップ人事では、J Aえひめフレッシュフーズ(株)が天津満代表取締役社長、(株)えひめフーズは森實光夫代表取締役社長がそれぞれ就任しました。

グループ各社の新常勤役員（常務以上）は次の通りです。※カッコ内は前職。

- ◆ J Aえひめフレッシュフーズ(株)（6月18日付）
  - ▽代表取締役社長（参与）天津満
  - 【退任】幸地慎一（代表取締役社長）
- ◆ (株)えひめフーズ（6月18日付）
  - ▽代表取締役社長（(株)えひめ飲料常務取締役）森實光夫
  - 【退任】長尾博文（代表取締役社長）
- ◆ (株)えひめ飲料（6月18日付）
  - ▽代表取締役専務（専務取締役）濱本泰久
  - ▽取締役（常務取締役）森實光夫
- ◆ J Aえひめエネルギー(株)（6月17日付）
  - ▽常務取締役（参与）宮田研二
  - 【退任】佐伯和俊（専務取締役）

## 「道後温泉で伊予牛『絹の味』食す。」キャンペーン!

～9月30日まで道後温泉の旅館7館で実施中～

J A全農えひめと道後温泉の旅館7館、J Aグループの(株)農協観光愛媛支店がタイアップして、伊予牛『絹の味』の消費拡大と道後温泉の宿泊客・観光客の拡大をめざし、7月1日(水)から9月30日(水)まで、「道後温泉で伊予牛『絹の味』食す。」キャンペーンを実施中です。

このキャンペーンは、“愛媛県＝道後温泉＝伊予牛『絹の味』”をより多くの皆さんにPRするとともに、美味しい伊予牛『絹の味』黒毛和牛で暑い夏を乗り切っていただくという企画です。平成24年度から実施しており、今回で4回目となりました。

今回は、全7旅館の料理に伊予牛『絹の味』黒毛和牛を使用。牛肉の消費が減少傾向の中で、旅館の協力を得て、サシが入って柔らかく、芳醇な味が持ち味の伊予牛「絹の味」黒毛和牛の消費拡大・PRに努めます。

先着1,000名様限定（ご利用は2名以上）の企画で、3,240円～6,480円（税込）、夕食が5,400円～7,020円（税込）という旅館ごとに設定した料金プランから、予算等に応じてお好みの旅館を選ぶことができます（要予約）。各旅館では、サービスとして柑橘王国愛媛の「柑橘デザート」を提供します。もちろん、旅館内では入浴も楽しめます。なお、飲み物代・宿泊費及び入湯税150円が別途必要です。



詳しくは、(株)農協観光愛媛支店まで。J A全農えひめと伊予牛「絹の味」のホームページでもキャンペーンを紹介中です。2名様以上の申し込みから受け付けます。

### ■参画旅館（7館）

ホテル葛城、花ゆづぎ、道後グランドホテル、ホテル古湧園、道後プリンスホテル、ホテル椿館本館、宝荘ホテル

### ■問い合わせ・予約申し込み

(株)農協観光愛媛支店 (Tel.089-948-5381)



## 「フズラン」より風いきおい

ターニングポイントのサインは、必ず身体に信号が走る。30代40代、仕事に打ち込んでいると、自ずと外に出るのが億劫になる。作品づくりは自分の中で完結するものだから、私的にはそれでよしとし、それなりに事足りていた。初対面の人と何を話せばいいのかわからず、上手く会話が続かないのも理由の一つだったかもしれない。人と接する事に消極的だったあの頃。何とも初々しい。今では余計なことまで口走る始末。歳を重ねるとは、こういう事かと反省する。ようやく周りが見えてくると、気になる事、感じる事が増えてくる。元気がなくなった砥部焼業界、どうなるんだろうと心配する。いい形で次の世代に繋げないと、砥部焼の将来に不安が残る。これは今を生きている私達の仕事だと思った。何とか現状を打破する術はないかと、モヤモヤもピークに達した時、何か行動を起こせと私の内側から指令が出る。

私は5〜6年前から年に数回、窯元の奥さんの女子会(?)にお邪魔させてもらっている。同じ仕事柄、気を遣う面もあるが、会を重ねる度に気心も知れ、気兼ねない楽しい会となっていた。そこに私のモヤモヤをぶつけてみた。「ネエ、女性だけのグループを作って、砥部焼PRできないかな？」一瞬みんな黙ってしまう。(まずい)：「それいいね、私やりたい」と誰かが言った。「そうよね、女性目線って大事よね」、「女性はしなやかな対応ができるし」。いい反応が返ってきた。段々とみんなが女性の力で産地を応援したいと乗ってきてくれた。よかったです。きつとみんなにも同じ思いがあったに違いない。そうなると話はずいぶん早い。女性でも何かできるんじゃないかと気合が入ってくる。

もともと砥部焼は男性社会。全ての話し合いは男衆が決めていく。良い面も勿論あるが、グググと思う事もある。もともと女性の意見を聞いてくれたらいいのに！こうなったら、勝手にグループ

# 山田 ひろみ

HIROMI YAMADA

砥部焼作家・砥部焼伝統工芸士。  
昭和32年佐賀県大町町生まれ。九州造形短大デザイン科卒業後、デザイン事務所(佐賀市)入社。昭和56年きよし窯・山田公夫さんとの結婚を機に、きよし窯で活動、染付の仕事に入る。平成4年一級技能士認定、技能士検定県知事賞受賞。平成9年国の伝統工芸士(加飾部門)認定。平成15年タオル美術館(今治市)にてHIROMI YAMADAブランドのデザインタオル発表。平成17年砥部焼伝統産業会館にて初個展「陶雛ヒナマツリ「ひいなさま」開催。平成20年愛媛県美術会員、砥部町シンボルタワー「愛伊砥(えいと)くん」のデザインに携わる。平成21年、全国展開のペーカリーショップ・リトルマーメイドのオリジナルカップをデザイン。平成22年いよてつ高島屋にて個展「陶雛ひなまつり」、平成23年タオル美術館ICHIHIROにて「山田ひろみ常設展」開催。平成24年砥部町文化功労賞受賞、平成26年砥部町無形文化財(加飾技術)認定。平成25年より女性作家(7人)グループ「とべりて」代表として、女性目線での砥部焼PR活動を展開中。  
受賞歴は、愛媛の陶芸展 最優秀賞、一水会 奨励賞、県展 特選4回、愛媛物産展 最優秀賞、砥部焼祭り新作展 大賞、他多数受賞。

◆砥部焼窯元きよし窯  
伊予郡砥部町五本松364 TEL 089-962-2168  
<https://www.facebook.com/kiyoshigama>



▲「とべりて」メンバー。この日はみんな、おめかしして♪

プを作って行動する方が得策だと思っ  
た。(ここが女性らしい発想)。焼物を  
買うのは女性が殆ど、そこにピンポイ  
ントで訴えることができるのは同性の  
私達。その強みを活かし、お客様の意  
見を聞いたたり、丁寧な対応、分かりや  
すい説明等も女性が優れている。やは  
り女性が前に出る方がPRも効果的だ。  
こうして生まれた女性作家グルー  
プ。「とべりて」は砥部焼の作り手か

ら取ったお気に入りのネーミング。ま  
ず、何から始めるか今後の方針を決め  
ていく。しかしこれがなかなか、やり  
たい事も違ったり、意見も多種多様。  
方向性も見えず、まとまらない。10人  
いたメンバーも諸事情で1人、2人と  
抜けていった。グループに一抹の不安  
が過ぎる。(どうしよう)。それでもみ  
んなで気持ちを立て直し、なんとか乗  
り切り前を向き直す。



▲プロのカメラマンに撮ってもらうのはすごく緊張!! こんなポーズも初挑戦

そこに、思いも寄らない助っ人が現  
れ、いい風が吹いてきた。詳細は次号  
としますが、JR四国の「伊予灘もの  
がたり」で使う食器の依頼だったり、  
中村県知事との出逢いだ。そんな風が  
次々と吹いてきて、いろんな事を巻き  
起こし、「とべりて」の活動に賛同し、  
女性が頑張っている、珍しい、と応援  
し、私達を高めへと押し上げてくれた。  
多方面の方々のお蔭でいろいろとチャ  
ンスを頂き、至る所で砥部焼のPRを  
させてもらえた。「何かグイグイ背中  
押されてる感じ」。全員がこの状況  
に戸惑っていたが、不思議な程、順調  
に進んでいった。その分、非常に忙し  
さも増し、仕事との両立が大変になっ  
た。子育て真っ最中の人も、1人で窯  
をやっている人もいる。時間のやり繰  
りに追われ、生半可な気持ちではでき  
ない所まで「とべりて」の活動は来て  
いた。それでもみんなは真剣に「とべ  
りて」と向き合い、本気でぶつかって  
いる。そう出来るのも家族の理解あっ  
ての事と感謝していた。  
思いが1つの方向を向くと凄いいパ  
ワーを生む。そのパワーは風となり、  
今度は自らの力でいろんな事を巻き起  
こした。そして一層強くて固い絆と  
なっていくのだ。  
精一杯走っている「とべりて」。ど  
こかで私達を見かけたら声を掛けて下  
さい。応援をよろしくお願ひします。

## ●愛媛県果樹同志会 第2回総会

### 新会長に松浦喜孝さん～新役員体制決める

愛媛県果樹同志会は、5月18日、松山市のJ A愛媛別館で第2回総会を開き、会長に松浦喜孝さん（西宇和青壮年同志会・新任）を選任しました。松浦会長は、「会長になり身の引き締まる思いです。新役員とともに、人のつながりを大事に、会員・J A・J A全農えひめ・県・関係団体が一体となって『チーム愛媛』として周年供給体制に取り組むことで、柑橘日本一の座を確固たるものにしていきたい」と力強くあいさつしました。

果樹同志会は、高齢化や後継者不足による会員の減少が進む中で、組織活動の維持・活性化を図ろうと、昨年5月、男女の同志会組織を合併して発足。県内7地区の同志会と4地区の女性組織で構成されています。

平成27年度事業計画では、温州みかんの隔年結果是正対策と中晩柑類・落葉果樹類も含め高品質安定生産対策を最重点課題に、生産対策や生産基盤の整備と経営改善、農政活動や消費者交流活動、教育情報活動などに取り組むことを決めました。

また、「J Aグループの自己改革及びTPP交渉に関する特別決議」を全会一致で採択。農協改革が真に「農業所得の増大、地域の活性化」に結び付くようJ Aグループの自己改革に組織の総力をあげて取り組むとともに、TPP交渉で



▲（写真左から）二宮副会長、武内副会長、松浦会長、能田副会長

は国会決議の実現に向け運動展開することを確認しました。

平成27年度のその他の主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属同志会）。

▽副会長＝能田英文（えひめ中央果樹研究同志会・新）、武内千恵（南予女性果樹同志会・新）、二宮保美（西宇和女性果樹同志会・新）▽監事＝牛川慎吾（南予果樹研究同志会・新）、石橋仁志（えひめ中央果樹研究同志会・新）、井上久美（西宇和女性果樹同志会・再）、岡田孝子（南予女性果樹同志会・新）

## ●平成26年産愛媛県柑橘類販売反省会

### 市場要望等を踏まえ今後の販売対策を協議

J A全農えひめ果実課は、5月15日、松山市のJ A愛媛別館で、27年産の販売に向け、「平成26年産愛媛県柑橘類販売反省会」を開きました。J Aの販売担当部課長、京浜・関東と関西地区の市場で組織しているマル媛会の会長が出席。26年産の販売総括を踏まえて出された市場からの要望等を中心に協議・検討しました。

温州みかんは、極早生みかんの食味不足と下位等級品比率が高いこと、出荷の集中もあり販売環境が悪化し市場流通在庫が日々増大。10月30日と31日分の販売停止など緊急出荷調整対応を行ったものの、11月に入り早生みかんの販売は、極早生みかんの残品が多く、早生みかんの品質内容や下位等級品比率の高さ、傷み果の発生、極早生みかんの食味の悪さなどから来る温州みかんのイメージの悪さなどもあり、荷動きは日増しに厳しさを増しました。11月下旬には、愛媛県独自の緊急出荷調整を実施しましたが、12月に入っても荷動きは低調なまま推移。12月中旬以降は、天候不順による量的な少なさにより市場残存量も減少し販売価格も底上げし、年明け以降は市場入荷量が少ない中で引き合いが強い状況でした。26年産は、日照不足等による品質への影響、寒波・降雪の影響による出荷量の大幅な減少、全国規模での極早生対策など生産販売面で課題が残りました。

伊予柑など中晩柑類は、温州みかんの市場在庫が少ないことや輸入果実が少ない中で売り場確保ができたこと、食味面などから全般的に価



格は前年を上回って推移しました。

愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」は、贈答用需要が高く順調な販売であったものの、厳選出荷・出荷基準の遵守、下等級品の販売方法の検討、「甘平」は、バラつきも少なく食味良好で、後半は末端でのリピーターは増加傾向。今後、規格の統一、5kgバラ出荷を増やすことや宣伝活動の強化が必要となっています。

市場からは、極早生みかんの品種更新、出荷面では食味の重要性が高い中で選別強化により内容・外観共に信頼される産地を目指すこと、販売面では品質内容と数量の確保をした上で販売戦略が重要であり、需要に応じた計画出荷と精度の高い情報発信などの要望が出されました。今後、こうした意見・総括を踏まえ、27年産のスムーズな販売につなげることにしています。

## ●第41回椎茸品評会表彰式・椎茸同志会第43回総会

# 成高王洋さんが7年連続最優秀賞受賞！

愛媛県椎茸同志会主催の第41回乾椎茸品評会表彰式が、5月21日大洲市のJ A愛媛たいき本所で開かれ、成高王洋さん（J A愛媛たいき）が7年連続で最優秀賞（全農会長賞）を受賞しました。

今回は、1月から3月に収穫された春子の中から35点が出品され、同志会役員・きのこセンター・J A全農えひめの審査員4人が規格の統一状況や色・光沢、形状、乾燥具合などを審査し、入賞13点を決めました。

今年の春子は、春と秋の発生適温期が極端に短かいなど天候不順の影響に加え、風評による価格低迷で有効ほだ木が減少したため、作況は四国で前年比70%、全国は同68%と大きく減少。1月から2月は平年を下回る低温で凍結や成長停止状態が続いた後、3月下旬の急激な気温上昇と暖雨に伴い一斉発生となりました。出品物は、前半が小葉の日和子で重たく、後半は中葉から大葉系が増え雨子の並品で軽いものが多くなりました。

7年連続最優秀賞の成高さんは、「今年は特に品質の良いものができにくい条件だったので、連続受賞した自分をほめてやりたいほど。全国大会では4年連続農林水産大臣賞を狙いたい」と意気込んでいました。

同志会の第43回総会も開かれ、平成27年度の事業計画と成高王洋会長（J A愛媛たいき・再任）ほか役員全員の再任を決め、「J Aグループ自己改革及びTPP交渉に関する特別決議」を全会一致で採択しました。

J A全農えひめ扱いの愛媛産乾椎茸の26年産の平均キログラム単価は、前年比103%の3,081円。東日本大震災以降、風評による消費の減少と流通在庫過多により過去にない価格低迷となりましたが、昨年末から売り場も徐々に広がり、消費も特売を中心に動きが出ており、下位等級を中心に引き合いが強くなり単価は底上げしま



▲7年連続で最優秀賞に輝いた成高王洋さん

した。今年に入り、持越在庫の減少と秋子・春子の不作により出回り量が少ない中、引き合いも強く価格は回復基調となっています。

成高会長は「長いトンネルだったが、やっと明るい兆しが出てきた。前年産価格の800円から1,000円高が期待できる。計画的な植菌増と反収アップとともに、消費者に愛媛の原木椎茸をアピールし消費拡大につなげよう」と呼びかけました。

品評会の主な入賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽優秀賞＝河内遼一（愛媛たいき）、大塚幸男（ひがしうわ）、▽1等賞＝久保勝利（愛媛たいき）、和気重臣（同）、高橋茂行（ひがしうわ）▽2等賞＝中村重清（同）、大和田孝（同）、矢野欣一（愛媛たいき）▽3等賞＝岡中勝彦（ひがしうわ）、姫地利光（愛媛たいき）▽努力賞＝松本和夫（同）、水野道春（ひがしうわ）

## ●毎月29日は「肉の日」

# リジェール松山屋上ビアガーデンで「肉の日」PRイベントを開催！

J A全農えひめ畜産部は、愛媛県産ブランド肉の美味しさをPRしようと、今年から毎月29日の「肉の日」にあわせ、リジェール松山屋上ビアガーデン会場で、J A全農えひめ職員と畜産SP（セールスプロモーション）レディらがその場で調理した牛・豚肉料理を無料で振る舞うイベントを始めました。

初回の5月29日は、ビアガーデン会場内に特設コーナーを設置し、職員らがPR・呼びかけを行いながら、「ふれ愛・媛ポーク」串焼き約400食分を提供しました。来場者からは、「美味しい」「ジューシー」「香りもいい」と好評で、多くのリピートがありました。

このイベントは9月まで実施。8月29日は「焼肉の日」は、昨年に続き来場者に伊予牛「絹の味」と「ふれ愛・媛ポーク」の焼き肉を無料で振る舞う予定です。

同屋上ビアガーデンは、今シーズン5月8日から10月10日まで、定休日（日曜・祝日）と盆休み（8月15日）以外は営業中。旬の食材を使っ



た40品食べ放題・飲み放題の「バイキングコース」3,100円（前売り2,900円）と、同コースに伊予牛「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」の焼肉1セットがついた「焼肉コース」3,800円（前売り3,600円）があり、人気です。予約・問い合わせは、089-948-5631まで。空席情報は、「リジェール松山」でネット検索できます。

## ●JA愛媛養豚経営者協議会第36回総会

### 生産性・肉質向上等を通じて農家経営安定めざす

JA愛媛養豚経営者協議会は、6月3日、松山市のJA愛媛で第36回総会を開き、PED（豚流行性下痢）など防疫管理の徹底と生産性・肉質向上による農家経営安定などを柱とした平成27年度事業計画を決め、「TPP交渉に関する特別決議」を採択しました。

竹内日出男会長は、「TPPは我々にとって死活問題であり、安全・安心面でもアメリカ基準を押し付けられる恐れがある。関係団体と一体となり強く訴えていきたい」とあいさつしました。

27年度は、全農クリニック事業を活用した個別衛生対策の実施、「系統養豚生産性向上プロジェクト班」による生産性・肉質向上対策の調査研究を通じて競争力強化と農家経営の安定、「ふれ愛・媛ポーク」の信頼確保・差別化を図るため農場HACCP等への取り組み、消費宣伝



▲あいさつする竹内会長

活動・生産情報の発信などに取り組みます。総会に先立ち、優秀会員としてJA西日本くみあい飼料(株)伊予スワインガーデン（大洲市）を表彰しました。

## ●平成27年度第1回愛媛県TAC管理者会議

### TAC活動の充実に向け10JAのTAC管理者が出席

JA全農えひめ営農振興課は、TAC活動の充実・ステップアップに向けて、5月27日、松山市のJA愛媛別館で「平成27年度第1回愛媛県TAC管理者会議」を開きました。

TACは、地域農業の担い手に出向くJA担当者の愛称。「とことん会ってコミュニケーション」を合言葉に、県内では10JAで80人以上が活動中です。

研修会には10JAの管理者など25人が参加。JA全農本所とJA全農えひめから情勢報告のほか、「TACの手引き」を通じてTAC活動のあるべき姿に向け、活動の目的や手順の明確化、管理者のポイント、TACシステム等を活用した「見える化」、活動コンセプトづくりなどを確認。また各JAの活動体制や活動状況、今年



度の取り組みのポイントなどの確認、「地域営農・担い手支援対策要領」の説明などを行い、情報共有と意見交換を行いました。

## ●えひめの食販売推進統括本部

### 「愛のくにえひめ営業本部」と連携し販売拡大を

JA全農えひめは、「トータルアグリード事業」を軸に、「えひめの食」商品の販路開拓を推進するため、部門間連携・横断による推進体制として、「えひめの食販売推進統括本部」（営業統括監＝関岡光昭副本部長）を設置し、愛媛県「愛のくにえひめ営業本部」（加藤龍彦営業本部長）との連携強化により、えひめブランドのイメージアップや販売促進等に取り組んでいます。

5月26日、両本部のメンバー36人が集まり、連携強化にむけて事業連携会議を開催し、両本部が愛媛産農畜産物の販売拡大と農家の経営安定という共通の目的に向けて、全体会議や事業別検討会を開催する中で、目標額等を設定し進捗状況の確認や具体策の検討・調整を進めてい



くことを確認。今後のスケジュール・内容を確認したほか、事業別の現状と今後の連携について意見交換しました。

## ●第17回JAグリーンえひめ 「フレッシュ市部会」総会 消費者に支持される 売り場づくりめざす

JAグリーンえひめ「フレッシュ市部会」は、5月11日、東温市中央公民館で第17回総会を開き、藤井由紀枝会長（再任）ほか新役員体制と平成27年度の事業活動計画を決めました。

27年度方針は、「魅力ある商品づくり」「豊富な品揃え」で消費者に支持される売り場づくり、「安全・安心」以上に自らが自信を持って販売できるものづくりとイベントや交流を通じた情報発信、食農教育など地域への貢献を掲げ、会員が一体となり取り組むことを確認しました。

生産者POPの掲示等により生産現場をイメージできる売り場づくり、会員参加による、「フレッシュ市祭り」「れんげ祭り」「収穫祭」等の交流イベントに積極的に取り組み、ファンづくりや地域との交流を進め、地域に根ざした消費者のための直売所をめざします。

JAおちいまばり直販開発室の西坂文秀さんが、「直売所による地域農業振興の拠点づくりをめざして」と題して講演があり、藤井会長は「さいさいきて屋くらいに賑わいのある店をめざそう」と呼びかけました。



▲「店に賑わいを」と呼びかける藤井会長

## ●「いよっこら」10周年感謝祭 ラジオ公開生放送など様々なイベントで魅力発信

ファーマーズマーケット「いよっこら」が、5月17日、開店10周年記念食育イベントとして、「第1回いよっこら父の日お弁当コンテスト」を開催し、コンテストの様子が同店特設会場から南海放送ラジオで生放送されました。

コンテストは、小学生とお母さんが地元食材を使って作った700円程度のお弁当とお父さんへのありがとうメッセージを募集。伊予市などから13点の応募があり、料理研究家の近藤一樹さんやスポーツ栄養士の大田美香さんが審査し、伊予市在住の福岡美和さん・ゆらさん親子の「お父さんの顔」が優勝作品に選ばれ、副賞の伊予牛「絹の味」1万円相当が贈られました。

また、5月23日と24日は、「10周年記念感謝祭」を開催し、牛モモの丸焼きや豚肉3頭分半額販売、1,456円以上お買い上げの方先着各300人に豪華景品が当たるガラボンくじなど多彩な催しを実施し、賑わいました。



◀優勝した福岡美和さん（左）・ゆらさん親子



## ●「いよっこら」運営協力会総会 “いよっこらファン” 拡大を

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっこら」運営協力会は5月12日、ウエルビア伊予で平成27年度の総会を開き、27年度事業計画を決めました。

来店客数は昨年末あたり回復傾向にある中で、27年度は「消費者が直売所に求めるものは何か」をお客様目線ととらえ、出荷会員と店舗が一体となりそのニーズに応え、地域での存在感を強めていくことを確認しました。

27年度はオープン10周年を迎えることから、「10周年感謝祭」をメインに様々なイベントや食農教育を実施するとともに、ミニラジオ番組やホームページを通じて、情報や魅力の発信、



お客様との交流をさらに深めていくことを確認しました。

# なんでもBOX

## ●(株)えひめ飲料

### POMブランドのポスターに石川佳純選手を起用！ 商品PRとブランドイメージアップめざす

(株)えひめ飲料は、今年度から全農所属の石川佳純選手が登場するポスターを作成し、「ポンジュース」などPOMブランド商品のPR・イメージアップに活用しています。

(株)えひめ飲料の主力商品「ポンジュース」は、愛媛といえば「ミカン」、「ポンジュース」と言われるほど、「こだわりは、まじめです。」のキャッチコピーとともにお馴染みです。

「ポンジュース」のポスターは、POMのロゴ入りユニフォームを着た石川佳純選手とともに、「夢に向かって1ポン1ポン」のキャッチコピーで、石川選手が商品を手に笑顔を見せるバージョンと、ラケットを力強く振るバージョンの2種類あります。

「夢に向かって1ポン1ポン」のフレーズは、日々1本1本を大切に世界に向けて挑戦している石川選手と、お客様に喜んでいただけるよう美味しい商品をまじめに1本1本提供してきた(株)えひめ飲料と「POMブランド」のイメージをより身近に感じてもらえる仕上がりで、関係者の間でも好評です。

6月からは「POM塩と夏みかん」のポスターに、石川選手が笑顔で登場しています。

(株)えひめ飲料ホームページでは、世界のスーパーショットが見れる石川選手のすごわざ動画『1ポン勝負！』も公開中です。お見逃しなく。

ポスターと動画の撮影は、1月に愛媛で開催された「石川佳純卓球教室」にあわせておこなわれました。普段からポンジュースが好きで飲んでいるという石川選手は、「飲む」撮影は初



めてだったので新鮮でしたし、難しかったです。撮影の合間に他の商品もいろいろ飲ませていただきましたが、どれも美味しかったので、これからもいろんな商品を食べたい」と素敵な笑顔を見せていました。

## ●全農杯全日本卓球選手権愛媛県予選

### 少年少女が全国大会めざして熱戦！

全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）愛媛県予選会が、5月16日松山市北条スポーツセンターで開かれ、少年少女60人が7月に開催される全国大会出場をめざし、熱戦を繰り広げました。

同大会は、県卓球協会が主催する小学生対象の大会では最大規模を誇ります。男女別に小学6年生以下のホープスの部、4年生以下のカブの部、2年生以下のバンビの部の3クラスに分かれ、日頃の練習成果を競いました。

女子カブの部で優勝した篠原夢空さん（松山卓球教室）は、昨年のバンビの部に続き3年連続の優勝。「全国大会が楽しみです。4年生に交じって、昨年のバンビの部ベスト16以上の成績をおさめられるよう頑張りたい」と副賞を手に笑顔を見せていました。

J A全農えひめは、参加賞のほか、男女各クラス3位以上の選手に副賞として「えひめみかんいよかんジュース」やひめライス「愛媛県産にこまる」を贈りました。

卓球女子日本代表の石川佳純選手が所属する



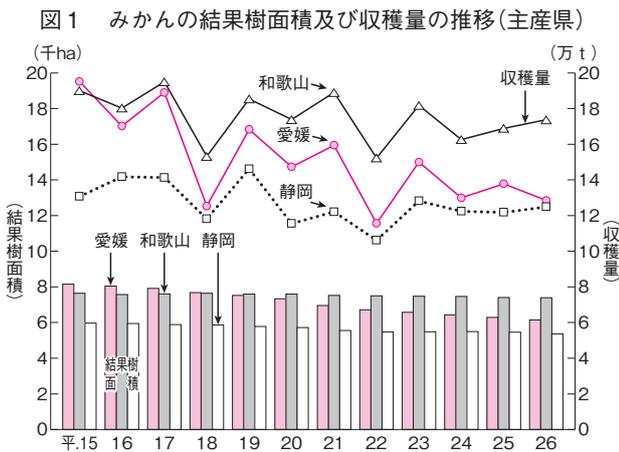
▲カブ女子の部優勝の篠原さん（写真中央）と2位の山藤結夢さん（右・松山卓球教室）、3位の堀本結愛さん（伊予卓研）

J A全農は、少年少女たちの夢の応援と健康な身体が育まれるようにという願いを込めて平成25年から同大会に協賛しています。最高峰の選手・大会の応援とともに、同大会や「石川佳純卓球教室」の特別協賛を通じて次世代の育成に取り組み、世代を超えて日本卓球界の発展を支援しています。

# 統計BOX

## 結果樹面積、収穫量ともに全国第2位！

— 平成26年産みかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量から —



愛媛県の26年産みかんの結果樹面積は6,150haで、前年産に比べて140ha(2%)減少しました。これは、優良品目・品種への転換に加え、生産者の高齢化に伴う廃園や規模縮小等があったためです(図1)。

また、品種区別にみると、早

**結果樹面積は年々減少、6割が早生温州**

**愛媛** 媛県産みかんは、多様な柑橘類へと切り替えが進む中、平成26年産の結果樹面積、収穫量は、ともに全国第2位となっています。今月は、県を代表する果樹であるみかんの生産推移をみていきます。

図2 みかんの結果樹面積の品種区別割合(愛媛県)

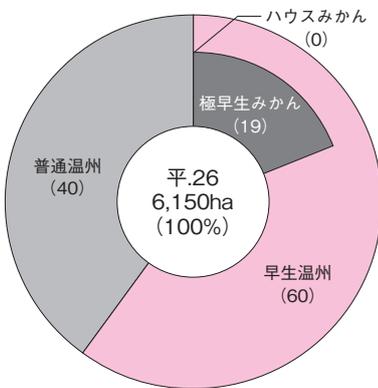
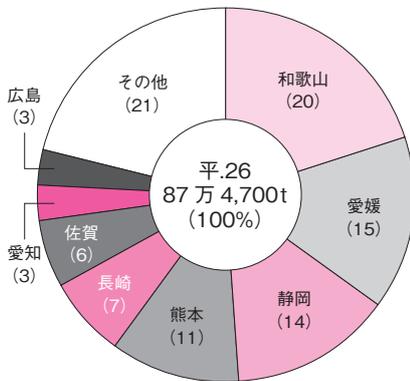


図3 みかんの都道府県別収穫量割合



**収穫量は前回の裏年と比べてやや減少**

愛媛県の26年産みかんの収穫量は12万8,500t、出荷量は11万7,300tで、前回の裏年である24年産に比べて、それぞれ1,400t(1%)、1,100t(1%)減少しました。これは、着果数が確保され、肥大も比較的良好だったものの、12月の強風や降雪で傷果や果皮障害が発生したことや結果樹面積の減少によるものです(図1)。

全国の収穫量は87万4,700tで、第1位が和歌山県17万3,700t(全国シェア20%)、次いで11年連続第2位の愛媛県(同15%)、静岡県12万4,900t(同14%)の順で、上位3県で全国の約5割を占めています(図3)。

愛媛県では、みかんの結果樹面積が減少する一方で、近年、柑橘類の新品種が育成・導入され、産地の主力品種として成長を遂げています。しかし、生産現場に目を向けると、生産者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、資材費の高騰や高止まり等課題が山積しています。

「柑橘王国愛媛」として、果樹農業を維持発展させ、生産農家の経営安定を図るためには、高品質果実の安定生産、園地の若返りや高値で取引される優良品目・品種への転換の加速化と周年供給体制の構築等による産地供給力の強化、さらには、省力・低コスト経営を目指した生産基盤の実現が重要です。

中国四国農政局  
松山地域センター農政推進グループ



NOW NOW

# COOKING

## 今月の素材 インゲン



茹で時間は2~3分。一気に冷やし、素早く引きあげ、色と旨みをキープ

▶(左) インゲンのかき揚げ、(右) インゲンの梅おほかか和え、(中) インゲンの卵とじ



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

### インゲンのかき揚げ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約265kcal
インゲン	50g
カボチャ	1/8玉
ゴボウ	1/2本
小麦粉	適量
揚げ油	適量
〈衣〉	
水	150cc
卵黄	1個分
小麦粉	1カップ
赤シソふりかけ (ゆかり等)	小さじ1/2
塩	小さじ2

#### 〈作り方〉

- ① インゲンは斜めに切る。カボチャは千切りにする。
- ② ゴボウは笹がきにして水にさらし、水気をよく切る。
- ③ ボウルで水と卵黄を混ぜ、小麦粉を加えて菜箸でさっくり混ぜ、〈衣〉を作る。
- ④ 別のボウルに①、②を入れて合わせ、小麦粉をまぶし、③を入れて混ぜ合わせる。
- ⑤ 揚げ油を160℃に熱して、適当な大きさにまとめた④を入れ、揚げる。
- ⑥ ⑤を皿に盛り、混ぜ合わせた④を添える。

※レモンをかけても良い。

### インゲンの卵とじ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約251kcal
インゲン	80g
塩	少々
ベーコン (スライス)	60g
木綿豆腐	1丁
人参	1/4本
卵	4個
だし	300cc
みりん	40cc
砂糖	大さじ2
醤油	40cc

#### 〈作り方〉

- ① インゲンは斜めに切り、塩茹でし、冷水にとる。
- ② ベーコンは1cm幅に切る。豆腐は1cm角に、人参は短冊に切る。
- ③ 鍋に④を入れて、②を入れ、具材に火が通れば①を加えて、溶き卵を回し入れて、火を通す。

### インゲンの梅おほかか和え

〈材料・4人分〉	※1人あたり約31kcal
インゲン	80g
塩	少々
イカ	50g
パプリカ (赤&黄)	各1/4個
梅干し	2個
だし	50cc
醤油	小さじ2
砂糖	小さじ2
鰹節	20g

#### 〈作り方〉

- ① インゲンは斜めに切り、塩茹でし、冷水にとる。
- ② イカとパプリカは細切りにして、それぞれサッと茹でて、冷水にとる。
- ③ 梅干しは種を取り出し、包丁で叩いてボウルに入れ、④を加えて混ぜ合わせる。
- ④ 別のボウルに水気をよく切った①、②を混ぜ合わせ、③を入れて混ぜ、最後に鰹節を合わせる。

**熱中症対策に!**

# 塩と夏みかん

SALT & NATSUDAIDAI

全農所属 石川佳純

冷やしても凍らせてもおいしい

カロリーオフ  
アイソトニック飲料

国内産夏みかん  
使用

伯方の塩  
使用

スポーツの時も! お風呂上がりにも!

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地  
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp  
(通販専用) http://www.pom-j.com



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

組合員のみなさまへ

# はじめませんか？ 省エネ住宅でエコライフ。

JAオリジナル住宅

## エコキャンペーン

2015年4月1日～12月30日

※2016年3月31日までに着工可能、及び床面積30坪以上の方に限ります。



JA home "Age" Series  
21世紀の安心、エイジ

【エイジ】



【イーズマインド】

期間中、ご成約の方に、  
**エコキュート460ℓ  
プレゼント!**

光熱費がお得! 地球環境にも  
やさしい給湯システム。



リフォームも  
「基本は安心」  
JAホームで。



### バス

(ごんご方に)  
この際、快適な  
システムバスに  
したい。タイルが  
ひび割れて、  
水漏れが心配。



### キッチン

(ごんご方に)  
IH、食器洗い等、  
機能を充実  
させたい。  
流し廻りを  
清潔に保ちたい。



### トイレ

(ごんご方に)  
汲取りから  
水洗便所に  
したい。  
座って楽な  
洋便器にしたい。

新築から増改築まで、なんでもお気軽にご相談(無料)下さい。

お気軽に近くのJAホーム窓口までお問い合わせ下さい。

一貫したトータルサービスで安心をお届けします。

まずはお気軽に  
お電話ください。  
専門の担当者が  
ご相談に  
お伺いします。

ご相談

JAホーム営業

ご契約

施工

完成お引き渡し

アフターサービス



お近くのJA窓口へ

JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課  
TEL(089)948-5473

JA/JA全農